



岡田 実久さん

質問 私達が使う通学路は冬になると暗くなって怖いんです。暗いとよく見えなため滑って怪我をするかもしれません。特に暗いと感じる場所は、北電の前や診療所近くの踏切、名林公園の周辺などです。そこで街灯を増やすことはできないでしょうか。

答 弁 北電前は、平成29年のこども議会でもご指摘をいただいたので、その対応として、街路灯の設置ではなく、沿線事業所へ玄関等の電気の点灯をお願いし照度を確保しました。また、診療所近くの踏切は、既設の街路灯の向きを調整し、照度を確保しました。ただ、名林公園の周辺は、現地を確認の上、関係機関とも協議し、検討させていただき



小川 柚子さん

たいと思います。

質問 こぞくら荘の職員数が少ないと感じました。そこで、こぞくら荘で働きたいという人を増やすために、職員の賃金を上げるべきと思いますが、町としてこぞくら荘の人手不足をどう考えているか教えてください。

答 弁 介護保険法では、介護施設の利用者数に対して、人員配置基準が定められており、こぞくら荘の規模では20.9名が配置基準となります。この基準に對し、現在の職員数は、25.6名と基準を上回っています。法律上の基準を満たしているから問題ないというのではなく、多くの方に働いていただけること

で、職員の負担軽減、利用者のサービスの向上につながるかと考えています。こぞくら荘を利用されている方々への介護サービスが、人材不足などを理由に低下しないよう人材の確保や職員の負担軽減など働きやすい環境整備について、関係機関と協議していきたいと考えています。



奥山 友貴君

質問 幌延深地層研究センターの研究終了後のゆめ地創館や国際交流施設などはどうなるのか伺います。また、施設の職員がいなくなることに對する対策は考えていますか。

答 弁 三者協定では、研究終了後に、地下施設は埋め戻すことになっています。ゆめ地創館や国際交流施設

は、協定に該当しませんので、活用方法を検討する必要があるとあります。関連職員もいなくなり、人口が減り、町内消費も落ち込みます。今後に向けて検討しなければならぬと思っています。



梶浦 桃名さん

質問 秘境駅でのイベントの開催により、観光客が増え幌延町の活性化につながると思っています。秘境駅や町内各所を巡るスタンプラリーを実施し、景品に、特産品などを活用すれば、来町者が増え、移住も検討してくれるのではと考えました。鉄道系資産を幌延町の魅力とすることをどのように考えていますか。

答 弁 スタンプラリーは、秘境駅や観光名所を巡っていただく方法として合理的

だと思っています。J・Rを取り巻く状況は非常に厳しいものがありますので、今後の推移を見守りながら、町としてできることを考えていきたいと思っています。



岸 寿羽さん

質問 高校へ進学する上で、交通費や下宿代などの補助をしてみてもいいでしょうか。

答 弁 経済的な負担が進学先を選択する理由の一つとならないよう、基準を設けて助成や給付を行うことは検討に値することだと思います。ただ、税金を使つて助成をする以上、不公平があつてはいけません。幌延町の未来を担う優秀な人材育成のために必要な施策の一つだと考えますので、今後、関係各所と協議の上、